



企画にあたって

大門雅夫

(東京大学医学部附属病院検査部・循環器内科講師)

いかなる心疾患においても、迅速かつ適切な治療を行うためには、できるだけ早い段階で心臓の器質的あるいは血行動態的異常を評価しておく必要がある。心エコー図は、被ばくや侵襲を伴わずにこれらの評価が可能であり、循環器疾患の診療には欠かすことのできない画像診断法となっている。心エコー図のもう一つの利点は、ベッドサイドで簡便に行える点である。特に救急の場においては、その利便性から果たす役割は大きい。一方で、心エコー図による評価は、術者の技量や知識にも大きく影響されることがあるのも事実である。そのため、キャリアの浅い医師が一人で心エコー図検査を行った時には、評価があいまい、あるいは結果に自信がもてないということがしばしば起こる。

それではどのようにすれば一人で自信をもって心エコー図診断を行うことができるのであろうか。心エコー図で自信をもつ的確な診断を行うためには、十分な学習と経験が必要なことはいうまでもない。しかし、循環器の臨床の最前線を担う若い医師や技師すべてに「十分な学習と経験」を求めることは現実的ではなく、これを求めることでかえって心エコー図から遠ざけることになりかねない。まして、検査を行う傍らに指導医がいない状況ではなおさら不安であろう。経験の浅い検査者がまず最初に行うべきことは、検査前に十分にその患者の情報を集めて、聴診など身体所見を評価したうえで病態を想定して検査に入ることである。そして、一人で心エコー図検査を行うために不可欠な最低限の知識を、しっかりと身につけておくことである。

本書では、心エコー図の掟ともいえる誰もが知っておくべき重要なポイントについて特集を企画した。この企画では、心エコー図に関する知識を網羅的に取り上げるのではなく、初学者が救急外来などで心エコー図を用いて適切な治療方針を決めるために必要なトピックを選んで取り上げた。ここに挙げたトピックは、十分に理解していないと誤った治療方針を導きかねない重要なものばかりであり、心エコー図を担う全員に知っておいていただきたいものばかりである。今回の企画では、日本全国から優れた専門家を選んで依頼し、それぞれの項目について初学者にも理解できるように丁寧な解説をしていただいた。どの項目もわかりやすくまとまっており、短期間で要領よく心エコー図の重要ポイントを学習できるよう解説がなされている。読者におかれては、本企画のねらいをご理解いただき、是非とも本書を明日からの臨床に活かしていただきたいと願っている。